

親と子のわくわく科学ひろばの 26 年

村上美智子

「親と子のわくわく科学ひろば」は年に 1 回、名古屋市昭和区の松栄小学校で開催している科学のおまつりです。1992 年に第 1 回を開催し今年で 27 回目を迎えました。

開催のきっかけは高校の物理の川勝先生との出会いでした。川勝先生とお仲間の先生方が「豊橋おやこ劇場」の依頼で「親子で楽しむ科学ひろば」を開催し、その内容が今まで出会ったことのない科学を切り口とした子どもひろばであることに驚きました。

先生のお宅で新聞記事やシーラカンスの実物大魚拓のパズルを見せて頂き「面白そう、是非松栄小学校でやって下さい」とお願いしましたところ、松栄の OB でもある先生は二つ返事で引き受けて下さいました。

最初の打ち合わせ会で川勝先生とお仲間の先生方にあつと驚く不思議な実験を見せて頂きました。寒い時期に額に汗し嬉しそうに次々実験を見せて頂きその熱気にも圧倒され、その時の感激が今までの「科学は難しくて苦手」の意識を覆し、その後の活動のエネルギーになりました。こんなにわくわくする体験を皆で分かち合いたいと一気に盛り上がり、一晩で科学大好き人間になりました。

NHK がわくわくの準備から当日までを付きっきりで取材し、ドキュメンタリー番組「お母さん達の逆襲が始まった」として放映して頂きました。大きな反響があり「うちの小学校でもやってほしい。」とか「地域でやりたいので講習会をしてほしい。」と依頼を受け、多くの方と科学実験を通じて交流ができました。放送のおかげで広く地域の皆さんが科学実験の楽しさを知るきっかけになったかなと思います。

「わくわく」が長く続いたのは、幸運にも最初の出会いが川勝先生であり「楽しい科学」と出会えたこと、科学実験が年齢に関係なく誰もが楽しめるものであり、自分たちが楽しいように他の人にも楽しんでもらいたい、特に子どもと一緒に楽しみたいと思ったことが大きな理由の一つです。実行委員の多くは「わくわく」だけの関りではなく、ほかの地域活動で日常的に付き合いがあり、お母さん達のネットワークは心強いものです。一方で運営はなるべく簡素化し、負担をへらすよう心がけています。

最後に最近大人気のブースを紹介します。「化石堀り」です。趣味で化石堀りをしているお父さんが、毎年 5 月に北海道に 2 週間逗留し石を切り出し、家に送り、化石が見えるように石を小さく切り、さらに小さい子ども用には化石がすぐ掘り出せるよう仕上げておくそうです。石の塊を子どもが眼鏡をかけ、軍手をして金づちでトントンと掘り出します。好きな子はおじさんと化石の話をするのも楽しいようです。むろんおじさんもうれしいそうです。こんな本格的で珍しいブースは見たことがありません。また 80 歳過ぎのご夫婦が蒸し暑い梅雨時開催にもかかわらず毎年参加してくれます。お手製の電気ドリルを利用したミニトロッコ列車に子どもを乗せて走らせます。距離は 5 メートルで、時々止まりますが小さい子に人気です。第 1 回目から人気の水ロケットは今も大人気で、名城大学の谷口先生と学生さんが奮闘されています。岡島先生は 2001 年応用物理学会秋季大会でお世話になって以来毎年ご参加頂いています。

先生方と地域の皆様の応援を頂き、「わくわく」を無理なく長く続けていきたいと思っています。